

個人プログラムプラン（IPP）チームは、個人重視の計画プロセスを用いてIPPを策定しています。IPPは計画された結果を達成するために必要な物品とサービスの種類と量を特定し、参加者の健康と安全を確保します。IPPチームはまた個人の予算を策定します。これはIPPの実施にかかる物品とサービスの購入に使える、地域センターからの資金額です。

個人の予算額決定後、参加者はIPPの目標と目的に沿って物品とサービスを購入するための給付金を使う支出計画を策定します。参加者は支出計画策定において、次を考慮してください。

ステップ1：物品またはサービスは自己決定参加者のニーズとIPPの目標に関連しているか？

支出計画中の物品またはサービスはIPPで特定されたニーズまたは目標に対処するものであること。

- ニーズは何で、それが個人のIPPでの目標にどのように関連しているか？
- 物品またはサービスがIPPで望まれる結果達成にどのように役立つか？
- 物品またはサービスがコミュニティへの参加を向上するか？

物品またはサービスが参加者のIPPでのニーズに関連しない、または参加者のIPP目標達成に役立たない場合、支出計画に含めることはできません。

ステップ2：使用できる「自然なサポート」または「一般サービス」はあるか？

支出計画に物品またはサービスを含める前に、参加者はその物品またはサービスが自然なサポートまたは一般サービスで得られるかどうかを判断しなければなりません。SDPでは、参加者はまず利用可能な一般用サービスを使わなければなりません。

- その目標または結果を達成するのに役立つ自然なサポートがあるかどうかを調べてください。例えば、未成年の自己決定参加者に兄または姉がおり、親が家族の毎週の食料品の買い物をする間参加者の面倒を見ることができるなどです。これが可能な場合、有料のサポートは必要なく、無給の兄または姉は自然なサポートと考えられます。
- その結果達成に役立つ可能性のある一般用サービスがあるかどうかを調べてください。例えば、その個人は在宅サポートサービス（IHSS）の対象者で、その場合利用できる介護者（PCA）サービスを受けていますか？地域センターは一般用サービスの申請に際して個人にお手伝いをします。

ステップ3：物品とサービスはSDPとメディケイドで許可されているか？

SDPは連邦政府のメディケイド ウェイバーに参加しています。このウェイバーは、購入しても良い物品とサービスのリストを承認しています。SDPの参加者はこのウェイバーで許可された物品とサービスのみを購入できます（付録B参照）。

- このメディケイド ウェイバーで許可された物品とサービスの定義は[こちら](#)でご覧になれます。必要とする物品またはサービスが許可された物品とサービスの内のひとつである場合、その物品またはサービスは支出計画に入れることができます。
- 物品とサービスにはSDPで許可されていないものもあります。許可されていないもののリストは付録Bにあります。このリストはすべてを網羅するものではありません。
- 物品とサービスの一部は参加者の予算外で用意してもかまいません（付録B参照）。
- サービスコード333では、参加者向けの物品とサービスの購入に関してその他の規則があります。これについては付録Cのステップ5で解説します。

ステップ4：支出計画でサービスの提供に対して誰に支払いができるか、またそのプロバイダーの資格は何か？

- 有資格者の定義はサービスの種類によって異なります。例えば、介護サービスまたはセラピーサービスのようなサービスには、そのプロバイダーには学士号と州のライセンスが必要な場合があります。一時療養などその他のサービスでは、教育やライセンスに関する要件はありません。サービスはすべて大人で、業務に的確な方が行わなければなりません。
- サービスプロバイダーの具体的な適格要件については、[こちら](#)で具体的なサービスの定義で検索してください。参加者は必要に応じて別の適格要件の方を雇って、そのニーズを満たしても構いません。
- 法的に責任のある方は、サービスの提供に対して支払いを受けることはできません。これは、別の人を介護する法的な義務のある方を意味します。法的な責任は州法で規定されており、一般的には未成年者の親（実親または養父母）、法的に指定された介護者、未成年者の親類、また時により配偶者を含みます。

ステップ5：参加者向けの物品とサービスの使用

参加者向けの物品とサービスは、IPPで特定されたニーズに対処するSAPまたはMedi-Calを通してほかに提供されないサービス、機器、または物品を言います（参加者のコミュニティへの完全な参加機会の世話をし、改善し、維持するものを含む）。IPPチームは、その他の可能な物品とサービスについて検討し、他のサービスで参加者のIPPのニーズと目標に合うものがない場合には、参加者向けの物品とサービスに使用を検討する場合があります。参加者向けの物品とサービスは、参加者のIPPに書面として残し、参加者個人の予算から購入されなければなりません。実験的治療や禁止された治療の提供は受けないでください。

参加者向けの物品とサービスを使うには、これが次のように連邦のウェイバー要件を満たす必要があります。

1. 物品またはサービスのため、他のメディケイドサービスの必要が少なくなる
 - a. この物品またはサービスは、計画で希望する結果に関連するサービスに対するニーズをどのように減少させますか？または
2. 自立とコミュニティへの参加を促進する
 - a. この物品またはサービスは、計画での結果に関連するようにコミュニティへの参加を促進しますか？または
3. その人の家庭での安全を向上する
 - a. この物品またはサービスは、計画での結果に関連して参加者の家庭での人的安全をどのように促進しますか？および
4. この物品またはサービスは別の給付金源では利用できない
 - a. 一般的な資金源を含み、この物品またはサービスに資金を供与する別の資金源はありますか？

付録Bには、購入できる物品またはサービスの種類に関するその他の情報を記載しています。このリストは網羅的なものではありません。

ステップ6：支出計画の策定と審査

- 参加者はその支出計画を策定してください。
 - 支出計画では、地域センターの給付金で購入される各物品とサービスのコストを特定してください。正確なコストがわからない場合は、見積もりでも構いません。
 - 支出計画では各サービスを提供する人物のタイプを特定してください。具体的なプロバイダーの名称を含める必要はありません。
 - 支出計画の総額は、個人予算総額を超えることはできません。
- 支出計画ができあがれば、地域センターはその支出計画を審査し、特定された物品とサービスが連邦の財務参加の対象となること、一般的な機関から得られる物品またはサービスを購入するために使われないことなど、州法を遵守していることを確認します。
- 承認された支出計画は参加者のIPPに添付してください